



薄ら雪景色の共和病院
～2003/12/20 12月にしては38年ぶりの大雪でした～

入院医療中心から、地域生活中心へ

2001年に「21世紀を迎えて」、2003年には「共和病院が目指す精神科医療の方向性について」。また2004年には「精神病院の変革の時代」と、広報誌の新春号にて厚生労働省の施策を紹介しながら、当院が歩もうとしている方向性を述べてきました。

平成16年9月に厚生労働省は今後10年の精神保健医療福祉の基本的考え方を「精神保健医療福祉の改革ビジョン」として提示しました。

その基本方針としては「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本的な方策を推し進めるために、国民意識の変革～精神疾患は生活習慣病と同じく、誰もがかかりうる病気である事を90%以上の国民が認知する為の啓発をおこなう～と、しており国民が精神疾患を正しく理解し行動できるよう、また自分自身の問題として考える人の増加を促すとしています。

さらに精神医療体系の再編を考え、精神医療の現状の分析と精神病床の機能分化、地域医療体制の整備、入院形態ごとの適切な処遇の確保などを盛り込んでいます。また、かねてから72,000床の病床削減の受け皿として地域生活支援体系の再編も考え、地域生活支援体制の現状を分析し、市町村を中心とした計画なサービス提供体制の整備や、ライフステージに

応じた支援体系を作ることなど、これによればかなり綿密な計画を策定し、精神に障害のある人々の地域生活支援を様々な面から強化しようとするものです。

これらの施策の中で民間病院は、どう有るべきなのか考えるとき、共和病院としては急性期治療病棟、老人性痴呆疾患治療病棟のさらなる充実と長期入院を含む精神科療養病棟の機能見直し。そして社会復帰病棟からの退院促進を考え、長期入院している方達の分析、家族状況などの調査を進めます。

また、平成17年4月からは新たに精神科訪問看護部門を設置し、入院中から退院に向けての準備に関わりながら退院後の地域生活を支援して行く予定です。

平成17年10月には「あしび(福祉ホームB)」を開所しますが、入所予定の方達が心理社会プログラムや作業療法などを通して地域生活の準備を始めています。

いずれにしろ心を病んだ多くの人たちが、可能な限り入院という不自然な生活ではなく地域で自立して生活できるように、私たち病院のスタッフはより良い医療を提供し地域関係機関の協力と地域住民の方達の理解を得よう、努力していこうと考えています。



第2回 憩の郷 実践発表会を終えて

社会福祉法人 憩の郷施設長
宮沢 和志

昨年に引き続き今年も実践発表会を企画し、平成16年10月16日(土)に開催しました。これは年に一度、自分たちの実践を広く一般の人たちに見てもらおうというねらいで、昨年から初めた事業です。



昨年は初めてということもあって、色々と混乱もしましたが、今回は順調にいきました。今回は「メンバーが語る…」をコンセプトに、司会から進行をなるべくメンバーに担当してもらおうと考えました。当日参加していただいた方々には、その様子が少しでも伝わったのではないかと思います。自分たちの実践を自分たちの言葉で語りながら、フロアにいらっしゃる人たちにメッセージを送る彼等の姿は真摯そのものでした。

劇団半月座の「水戸黄門」はその中でも注目の企画で、この発表会に向けて、多忙な作業の中、試行錯誤を繰り返しながら舞台装置を作成したり、何度も練習を重ねてきました。今年初めて水戸黄門に参加したメンバーは、練習ではなかなか台詞が覚えられず苦



労していましたが、当日はアドリブを交えて自分の雰囲気を出している姿を見ながら、改めて内に秘めた可能性を感じました。演劇を終えて、皆さまから頂いた拍手の大きさはそのまま彼等の胸に応援のメッセージとして残っています。

ゲストとして共和病院のスタッフ(加藤さん、岡さん、山下さん、杉浦さん)によるグループ「共和ブラザーズ」による演奏は、なつかしのフォークソングの演奏をして頂き、会場の参加者の方々も思わず口ずさんでいらっやいました。あいち健康の森プラザの会場が一度に明るい雰囲気で包まれていました。



家族や憩の郷を応援してくださっている多方面の方々が当日のフロアを埋めてくださいました。しかし地方行政機関からの参加が少なく淋しさを思えたのも事実です。

このような発表会をこれからもずっと継続していきたいと考えています。これからも憩の郷をよろしく願いいたします。

実践発表会に参加して

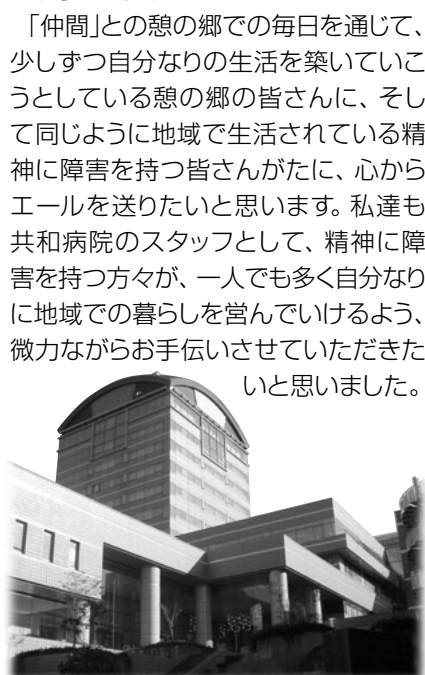
発表会は二人のメンバーさんの司会により進行しました。まずはワーキングスペースおおぶのメンバーさん3名が、毎日の活動について発表されました。続いてキャンパスのスタッフからこの春に始まった「プチワーク」についてビデオを交えて紹介、そしてメンバーさんによる「プチワーク」を通じて経験し考えたことについての発表と続きました。どの発表も、憩の郷の日常がとても

よく伝わってくる発表だったと思います。また、当院スタッフによる演奏もなかなかのもので、実践発表会に花を添え、会場のムードを盛り上げていました。後半は、劇団半月座の「水戸黄門」でした。昨年の第1回実践発表会以降、いくつもの舞台で公演を重ねた「水戸黄門」は、昨年よりグレードアップしており、上演終了後のカーテンコールは、笑いと涙であふれていました。



発表やお芝居で舞台上上がった憩の郷の皆さんを見ながら、「仲間」について考えてみました。精神に障害を持つ方々が地域で暮らしていくうえで大事なものを、いくつかあげるとすると、「住むところ」「食事の確保」「集う場」「働く場」「気軽に相談に行ける場所」…まだまだたくさんありそうです。そしてその中の一つに「仲間」があるかと思っています。同じ障害を抱えて暮らす「仲間」と、お互いに助け合い、励ましあうことは、地域での生活を送るうえで、大きな力になるのではないのでしょうか。憩の郷の皆さんを見てみると、そんな「仲間」がいて、「仲間」と関わって、そしてその「仲間」と助け合い支えあいながら日々を送る様子が目に浮かぶようでした。

「仲間」との憩の郷での毎日を通じて、少しずつ自分なりの生活を築いていこうとしている憩の郷の皆さんに、そして同じように地域で生活されている精神に障害を持つ皆さんがたに、心からエールを送りたいと思います。私達も共和病院のスタッフとして、精神に障害を持つ方々が、一人でも多く自分なりに地域での暮らしを営んでいけるよう、微力ながらお手伝いさせていただきたいと思いをいたしました。



起工式



平成16年12月15日、福祉ホームB「あしび」の平成17年10月竣工と旧名誉院長宅の解体および基礎工事に関わる平安無事、工事期間中の安全を祈念、祈願し、施主の共和会、設計監理会社の加藤建築事務所、施工業者大林組、大府市役所福祉課の方列席のもと、旧職員西駐車場にて起工式が厳かに執り行われました。

「あしび」は、病状は安定していても必ずしも入院治療を必要としない精神障害者の方で、一定程度の介助があれば日常生活を営める方を対象に、居室やその他の設備を利用していただき、自立と社会復帰に向けて必要な援助を行う中間施設として建設いたします。概要は、定員20名、全室個室（お一人あたり10.75㎡）の他、食堂、調理コーナー、浴室、談話室などを備えた、鉄骨2階建て、敷地面積485.94㎡、延べ床面積542.50㎡の施設を予定しています。またこの工事にあたり、近隣の皆様をはじめ患者さまやご家族の方々のご理解、ご協力が是非とも必要になって参ります。また、職員に於きましては駐車場規制などお願いすることになり、今回の工事へのご理解、ご協力をお願いいたします。「あしび」の詳しい内容は後日この誌面を借りて、改めて紹介させていただきます。



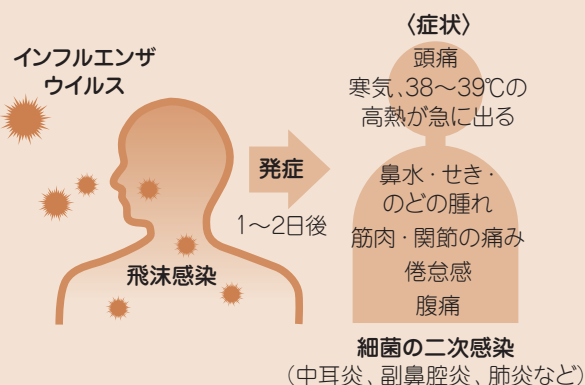
編集後記



このたびの新潟県中越地震により被害にあわれた皆様へ心よりお見舞いを申し上げます。1日も早く復旧されますようお祈り申し上げます。皆様方も東海地震に対する備えはお済みでしょうか。家族との集合場所の確認、家庭や職場での耐震対策、緊急時のための水や薬、食料など地震に備えた準備は人ごとではなく自身でしっかりとっておかなければならないでしょう。

インフルエンザに負けるな

今年もインフルエンザの季節となりました。インフルエンザはいったん流行すると、短期間に乳幼児から高齢者まで膨大な数の人を巻き込んでしまうことがあります。近年では、簡単にできるインフルエンザの診断キットやインフルエンザに効果のある薬なども開発されていますので「おかしいな？」と思ったら早めに医療機関にかかりましょう。また、インフルエンザにかからないために、皆さんでできる予防方法をご紹介します。



“インフルエンザ予防の10カ条”

- (1) ワクチンの接種
- (2) 人混みを避ける
- (3) 手洗い・うがいの励行
- (4) 規則的な生活と栄養摂取
- (5) ビタミンCの摂取
- (6) 安静にし、過労は避ける
- (7) 室内を加温・加湿する
- (8) マスクの着用（気道を保温・保護するため）
- (9) 消化の良い食事で十分に水分・栄養をとる
- (10) 禁煙

以上のことに注意して、十分な栄養と休養をとって今年も元気に過ごしましょう。

また、上記10カ条はかぜの対策としても有効です。

今年のカラーは、すべてのものを育む大地の色のブラウンです。明るい話題が少ない昨今、せめて皆さまに大地のパワーでもお届け出来るようにラッキーカラーの「ブラウン」にて今年も広報誌をお届けいたします。今後とも少しでも共和会の様々な情報をお届け出来るよう「WA!」が皆さまとの架け橋になれば願っています。

共和病院俳句会 第500回を迎えて

第500回の共和病院俳句会が昨年11月29日に催されました。

名誉院長 加藤 邦之助

ピック東京大会が開催され日本が初めて体操競技で

優勝、金メダルを取ったのでした。それ故、第1回の句会の優秀な句に金・銀・銅の賞を贈るようにしましたが、それは現在までも続いているのです。

句会も最初の頃は皆さんが熱心だったのか、月に2回も開催しましたが、私が昭和40年院長になってから仕事の都合にて月1回になったのは昭和48年2月の第120回からになって居ります。また、初めの頃は芭蕉の句や他の雑誌などの入選句を投稿する方も有りましたが、今は皆一所懸命に自分で考えて出して下さっているようです。そして私の講評を楽しんで聞いてもらっています。また、私にとっても生き甲斐の一つになって居ります。



これには入院していた方の中に俳句を作っていた人があり、看護師(当時は看護婦)にも俳句の好きな人が居て一切の世話をしてくれたのが良かったと思って居ります。と言うのはその頃私はまだ名古屋で内科医院を開いて居り、共和病院へは週1回診に来る程度でしたから色々きちんとしたことは出来ませんでした。句会も月2回催され、入院している人たちが組織していた自治会の行事として行われたようです。

当時は医師のインタビューの他は病院の裏の空き地(現在昭和丸筒工場)で病棟対抗の軟式野球をしたり、コーラスの会をやったり、病院の前の道を1km近く歩いて往復するのが日課のように行われ、道の両側の畑や田んぼの上空で雲雀が長閑に鳴いていましたのが、今では懐かしく思い出されます。その他作業と云って良いのかどうか、全員で看護師さんもまじって給符(えふ)の針金通しの手内職、後には鶏卵を箱に入れるフィラーというボール紙の枠作りなどがあり、その収入で運動会の賞品やクリスマスのケーキ代などに当てていたように思います。

昭和39年といえは矢張り新潟に地震があり大きな病院が地滑りで倒れかかっているニュースを今もはっきり覚えています。今回の新潟の地震は前の時より大きくて、余震がいつまでも続き、前回は6月でしたが今回は11月から極寒の季節なので本当に心が痛みます。また、この年は10月10日に第18回オリン

今回500回というけじめの時、これまでの優秀な句を選出して記念句集を刊行しようと思って試行錯誤の毎日が続けて居ります。というのは、立派な良い句を集めるのか、1回3句選んでも1500句、句集としては300句位にしたい。一方記念句集ということなら1句でも出した方も載せてあげたい。それなら協力して出句してくれた職員の1句も出したい。今一つ欲の深いことを許してもらえらば、私の句集「花ふぶき」以降の句も少し載せたいと思っても居ります。

今年の3月には92才の誕生日を迎えますので、それまでに記念句集が出来ればよいかと焦って居ります。そして出句していただいた方々に一部ずつ差し上げることが私の最大の願望であり、また喜びであると考えて居る次第でございます。



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは!

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは!

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

基本方針

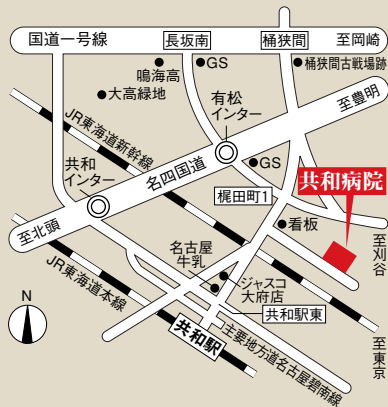
～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様へより良い医療をやさしく安全に提供し、納得のいく医療を受けていただくために努力しています。それには利用者の皆様と医療者の意志の疎通が最も重要であると考えます。

これを実現するために、わたしたちは思いやりのある、人格を尊重した医療を提供するとともに、以下のような医療を目指しています。

- 1.あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
- 2.あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
- 3.あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることが出来ます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
- 4.あなたの医療上の個人情報には保護されます。

病院長 榎本 和



特定医療法人 共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>

俳句コーナー

名誉院長
加藤 邦之助

安々と
海鼠の如き
子を産めり 漱石

明治三十一年五月長女筆子さんの生まれた時の句で、海鼠(なまこ)は冬の季語です。初産の妻が無事に産んだので心の底からよかったと思っただけでしょう。漱石には他に五句海鼠を詠んだものがありますが、それは全部冬の句になっています。それから十五年後の大正四年に書いた「道草」の中で「ぶりぶりの寒天のように」なものとか「恰好の判然しない何かのかたまり」といった感触は、長女の赤ん坊を初めて抱いた時に味わったのではないのでしょうか。

古事記の中で海鼠の事が出てきます。「天つ神の御子に仕え奉るか」と海の魚類に云いわれた時、皆がお仕え致しますと答えたのにひとり答えをしなかつたために、ウズメノミコトが小刀で海鼠の口を切り裂いてしまわれたので、今の姿になったのだと言ひ伝えられています。この句は初めての赤ちゃんにびっくりして出来たのだと読めば楽しいではありませんか。